

ケースメソッド教育について

慶應ビジネススクール(KBS)博士課程
国保祥子
akokubo@dol.hi-ho.ne.jp



ケースとは

- ✦ 実際の経営に関連した出来事が、文章、図表、データなどでありのままに記述されている資料
- ✦ 理論・特定の答え・ケース作成者の意見は含まれていない
- ✦ 2タイプのケース
 - ✦ 教育ケース: ディスカッションを通して学ぶための教材
 - ✦ 分析ケース: 分析が含まれており、読むだけ学びがある (KBSのケースは教育ケースです。)

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドとは

- ✦ 「ケースメソッド」
 - ✦ ケースを用いた教育の方法論
 - ✦ アウトカムはプロセスや議論
- ✦ 「ケーススタディ」
 - ✦ 事例研究または考察の方法
 - ✦ アウトカムは教材やレポート
- ✦ 「ケースメソッド教育」「ケースメソッド授業」
 - ✦ ケースメソッドを用いた教育のこと

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドの起源

- ✦ ロースクールで行われていた、判例を用いる模擬裁判などの討議形式の授業が起源
- ✦ 実践的な経営教育の方法として、1930年頃からハーバード大学ビジネススクールが開発
- ✦ 日本では慶應ビジネススクールが1962年以來「ケースメソッド」を主な教育方法として採用。年間200本以上のケースをこなす。

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドで習得できる能力

- ✦ 経営の実践の場では2つの能力が求められる

問題解決や経営活動に必要な「理論知識」

意思決定力や実行力といった「実践力」

- ✦ 「実践力」とは、直面する経営問題に対し、責任者として判断を行う力、実行する力、意思決定力、統合力、洞察力などで、横断的思考力が必要とされる
- ✦ この2つの知識は、重複し相互作用をしながら伸びていくものである。

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドで習得できる能力

- ✦ 実践力は文字による説明では身に付かない
 - ✦ 「知っている」と「実行できる」ことは別物である
- ✦ 実践力の獲得には、「修羅場」経験が有効であると言われる。
 - ✦ 修羅場とは、これまでの自分のやり方の限界を認識し、他者の新しい考え方に触れざるを得ない状況である
- ✦ ケースメソッド授業で修羅場を疑似体験することで、実践力を高めることができる

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドと他の教育方法

講義形式との比較

- 目的が異なる
- 理論知識の獲得は、知識を持っている人から持っていない人へ整理された形で伝達し注入する、講義形式の方が効率的である

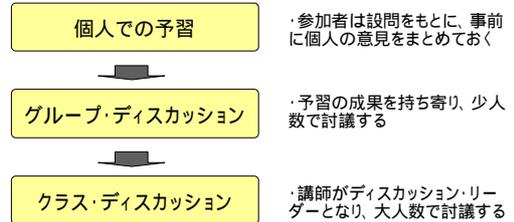
実務との比較

- 失敗が許されるため、創造的な選択肢が検討出来る
- 短時間で多くのケースを経験できる

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッドの学習手順

ケースメソッド授業は以下の流れで行われる



Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッド授業の効果

- 他人の考えに触れることで、自分の思考プロセスに不足している部分や新たな視点に気づく
- 自分の意見を言葉にして発することで、自分の思考を深められる
- これらのプロセスを通じ、参加者は自分自身の思考の枠組みを、より洗練されたものに再構築していくことができる

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッド参加者の心構え

- ケースの当事者の立場として分析し、判断し、どう実行するかを考える
 - リアリティがあるほど修羅場度合いは高まる
- 繰り返し考え、自分の思考プロセスを訓練する
 - 思考を繰り返すことで「脳の筋肉」が鍛えられる
- ディスカッションでは積極的に発言する
 - 発話することで主体性が高まるため

思考の深さ = 学びの深さ です！

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

ケースメソッド授業における留意事項

- ケースメソッド授業の目的は、参加者が自らの頭で考えていくその「意思決定過程」にあるため、講義形式のような「結論」はない
- 講師の述べる結論や後日談は、あくまで意思決定の一例であり、「正解」ではない
- ケース中に意思決定に必要な全ての情報があるとは限らないが、実際の経営現場も同様であるから、限られた情報の中で思考を最大限に深める努力をする

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved

参考文献

- 高木 晴夫, 慶應義塾大学ビジネス・スクール(2004)「ビジネススクール・テキスト 人的資源マネジメント戦略」 有斐閣
- 慶應ビジネススクール公式ホームページ <http://www.kbs.keio.ac.jp/>
- ルイス・B. バーンズ(1997)「ケースメソッド 実践原理 ディスカッション・リーダーシップの本質」 ダイヤモンド社
- 高木晴夫 / 竹内伸一(2006)「実践！日本型ケースメソッド教育」 ダイヤモンド社

Copyright©2007 Akiko Kokubo (KEIO Business School). All rights reserved